



さくら

題字 足立区長 近藤 やい
足立区民生・児童委員協議会だより

発行

足立区民生・児童委員協議会
会長 小久保 隆
編集 広報委員会
発行日 2019年11月1日
〒120-8510
足立区中央本町1-17-1
TEL 03-3880-5870



「マボロシドラゴン」西新井第一小 2年 安 志原 作

目次

全 員 研 修 会	2
会長協議会視察研修	3
広報委員会視察研修	4
4 地 区 自 主 研 修	5
高齢者声かけ訓練	6
シリーズ「子どもたちはいま」	7
さくら アンケート結果	8
編 集 後 記	

一斉改選を迎えるにあたり

足立区民生・児童委員協議会会長 小久保隆



いよいよ12月1日に一斉改選を迎えます。今任期は、平成から令和へと時代が変わる歴史的な任期となりました。私達、民

生・児童委員の出来事では、平成29年に民生委員制度創設100周年という記念すべき年を迎えました。それに合わせ、足立区民生・児童委員協議会では、100周年記念誌の発行をはじめ、記念の全員食事会や近藤区長が1日民生・児童委員として北千住駅でPR活動を行うなど、特別な活動を多々行い、とても印象深いものとなりました。

100周年に関連するもの以外にも様々な活動をしてまいりましたが、その中でも私がとても嬉しかったことがあります。それは合同視察研修です。相馬市の現状を直接見聞きたいという私の思いに皆様の賛同をいただき、全合同が相馬市を視察先にしていただいたことです。この時の皆様のお気持ちと団結力にとても

感動いたしました。

私は今任期をもって退任いたしますが、協議会会長を務めさせていただいたこの3年間は大変思い出に残る特別な3年間となりました。

私達民生・児童委員の活動に日頃より、ご指導ご協力いただいております関係団体の皆様、社会福祉協議会の皆様、足立区行政職員の皆様、そして民生・児童委員の皆様には、大変お世話になりました。

また、今任期で退任される委員の皆様におかれましては、長い間お疲れ様でした。皆様のますますのご活躍をお祈り申し上げます。

引き続き、民生・児童委員をお務めいただく皆様におかれましては、新たな歴史のスタートとなります。今後とも、足立区民生・児童委員協議会の発展にお力添えいただきますようお願い申し上げます。



8月1日 足立区民生・児童委員協議会 全員研修会

足立区内の民生・児童委員と協力員、約 550 名が一堂に会する全員研修会が、ギャラクシティ・西新井文化ホールで開催されました。毎年 8 月の第 1 木曜日に開かれるこの研修会ですが、元号が令和に改められて初めてとなる今回は 8 月 1 日に行われました。

アトラクションは、平成 26 年 7 月に発足し創部 5 年目を迎えた足立区民生・児童委員協議会コーラス部あだち葦立コール『絆』による合唱でした。足立区合唱連盟顧問の田口芳子先生の指揮により、混声合唱組曲「五色桜」から 3 曲を美しい声で披露しました。

式典では、多くの来賓の皆様を代表して足立区長近藤やよい様、足立区議会副議長くぼた美幸様、東京都民生児童委員連合会会長寺田晃弘様からご挨拶がありました。



▲ コーラス部 葦立コール『絆』



▲ 講演の様子

講演会は、都民連の寺田晃弘会長と東京都社会福祉協議会の荻野剛民生委員児童委員部長のお二人から、「民生・児童委員東京版活動強化方策の 5 本の柱について」のお話を伺いました。この強化方策は、民生委員制度 100 周年の大きな節目に 10 年先を見据えて策定されました。講演中、足立区民児協の活動とこの方策の関係についてのお話の中で、広報紙「さくら」が児童の絵画を掲載していることに対して、お褒めの言葉をいただきました。

急に夏らしさを感じた日でしたが、会場は大勢の来場者で一杯となりました。

(8 地区 森葉子 記)

感謝

叙勲 瑞宝単光章受章



▲野辺陽子氏

叙勲という身に余る光栄にとまどいながら、少し不安な気持ちではいえつ拝謁のためのお迎えのバスに乗りました。当日は五月晴れの暑いくらいのお天気で、そのためか緊張のためか、ずいぶんと汗をかいたことを覚えています。

かなり長い時を経て、いよいよ春秋の間に通されました。

天皇陛下のお言葉の後、代表の方の御礼の言葉が続き、陛下は私達の列を縫って歩かれていきました。

あっという間の出来事でした。

何とも言えない感動がこみあげてきました。本当に夢のような時の流れでしたが、初めての体験に大きな感動を禁じ得ませんでした。

今日、人生の半分の年月を民生・児童委員として過ごして来ることができたのは、先輩方のご指導、多くの方の励ましがあったからとつくづく思います。また、夫、義父母、子ども達の協力にも感謝しております。健康で、めぐまれた環境の中で残された任期を充実したものにしていきたいと思います。

(第五合同会長 野辺陽子 記)



6月2、3日に開催された会長協議会宿泊研修では、神奈川県の大磯町にある「エリザベス・サンダース・ホーム」を訪問しました。

本施設は、1948年、三菱財閥の創始者 岩崎弥太郎の孫である澤田美喜により創設されました。戦後の財閥解体に伴い、財産税として国に物納された大磯駅前の約1万坪の岩崎家別邸を買い戻し、乳児院を設置したのが始まりです。児童養護施設という性格上、子どもたちにとっては、くつろげる「家」の役割を担っているため、一般の方の見学はできません。例外として民生・児童委員や子どもの福祉を推進する立場にある社会団体等を、子どもたちが学校に行っている時間帯にのみ受け入れています。

地域交流館で「エリザベス・サンダース・ホーム」の歴史や澤田美喜さんに関するビデオを鑑賞後、山田和信施設長から貴重なお話をうかがいました。要約すると①生活の場である寮のほか、小中一貫教育を行っている少人数制の学校があり、全体の1/3は一般家庭の生徒が通っていること。②入寮理由は貧困や家庭内での虐待（身体的、性的、心理的、ネグレクト）が大半であり、男女の割合は男子4:女子3であるとのこと。③児童福祉法により18歳を過ぎると施設から出なければならないため、退寮後、仕事の継続や実質生活が可能となる指導が重要、という内容でした。



施設長の説明の後、施設内にある「澤田美喜記念館」を見学しました。1階は資料館で、澤田美喜さんが40年にわたり日本の津々浦々を巡って収集した800点を超える隠れキリシタンの遺物が展示されています。2階は礼拝堂になっており、ホームの子どもたちや施設を巣立ったOBの礼拝に使われています。

今回の視察研修にあたり、往路車中の会長協議会で、社会福祉協議会の和田部長から「エリザベス・サンダース・ホーム」について詳細な説明をしていただいたので事前に知識の習得に役立ちました。

有意義で楽しい任期最終年の宿泊視察研修を無事に終えました。

(民生・児童委員協議会会長 小久保隆 記)

赤い羽根共同募金

第七合同

募金総額 1,323,327円

(区内15駅の駅頭で民生・児童委員が声掛けをして募金していただいた金額)

毎年つくばエクスプレス六町駅にて募金活動をしています。お天気に恵まれ、都民の日でお出かけの親子が、一度通り過ぎ、戻って来て募金して下さいました。

10月1日から消費税率が10%になり、前日までのテレビでは買いだめのニュースでもちきりでしたが、その影響を感じさせず、今年も募金してくださる方がたくさんいらっしゃいました。朝の忙しい中、募金を



して頂いた皆様ありがとうございました。

(17地区 金子みどり 記)



広報委員会 ハンセン病を考える



平成 31 年 3 月 5 日、広報委員会相談役の小宮第七合同会長、福祉管理課民生係職員 2 人、そして広報委員会 22 人の総勢 25 人で、東村山市の「国立療養所多磨全生園と国立ハンセン病資料館」を訪ねました。ハンセン病という名は耳にしていたので知っているつもりでしたが、実態はまったく理解していない事を痛感した次第です。

往路の車中にて、ハンセン病の基礎知識の勉強と、短く通算 201 回目の広報委員会を開催しました。

目的地は、「〇〇自然公園」と勘違いしてしまう程の木々が生い茂る場所（広さ約 36 万 m²）でした。今では住宅地と隣接していますが、開園した昭和初期の頃は、人里から離れ社会から隔離された場所だったのでしょう。

多磨全生園には、患者は約 170 数人が生活していますので「自治会と集会所」、そして死亡しても引き取り手がいないので「納骨堂」がありました。

ハンセン病資料館では、最初に 40 分の DVD にて、過去の人権無視と差別のすさまじさを観ました。



「あなたも考えてください。

ハンセン病・・・何ができるかを・・・」の文字が最後に写し出されました。その後は展示室を見学しました。入口に「古くからさまざまな形で嫌われ、恐れられてきたハンセン病」。そして、展示室出口に「～あなたの『やさしさ』を信じて～」の言葉。一度ハンセン病のことについて考えてみて下さい。

（神明地区 矢澤敏臣 記）

一子どもの健康・生活実態調査結果から一 地域とのつながりづくりによる健康づくり

区では、平成 27 年度を子どもの貧困対策元年と位置づけ、様々な取組みをはじめました。当課では、区立小中学校に通う児童・生徒と保護者を対象とした「足立区子どもの健康・生活実態調査」を担当しています。

今までの調査結果からは、生活困難をかかえる世帯の子どもは、むし歯や肥満が多く、自己肯定感などの逆境を乗り越える力も低い傾向にあることがわかりました。

しかしながら、保護者が困ったときに相談できる相手がいると、子どもの健康に及ぼす生活困難の影響を軽減できる可能性があること。子どもが地域活動に積極的に参加して経験・体験を積み、お手本となる大人とかかわることで、逆境を乗り越える力を培える可能性があることなどが明らかになりました。つまり、子どもを取り巻く環境を変えていくことで、子どもの健やかな発達を促し、貧困の連鎖も軽減できるようになります。

一方で、全国の高齢者調査から「地域で役割のある高齢者は長生きしやすい」「人の話を聞きお世話をす

ると、心は健康」という報告もあります。地域のつながりづくりや子ども食堂の運営などを担っていただいている民生・児童委員の皆様の活動は、区民だけでなく、皆さまの自身の健康にも良い影響があるようです。ぜひ、引き続きのご協力をお願いいたします。

（こころとからだの健康づくり課長 馬場優子 記）



「海で泳ぐ魚」 西新井小学校 4 年 鄭 倫呼 作



4地区自主研修

「目の見えない事ってどんなこと」

4月15日、4地区の自主研修が行われ、視覚障がい者の成川和孝氏（＊1）から講演を頂きました。

駅のホームでは男性・女性のアナウンスで上り・下りの違いがわかる。紙幣は、古くなると識別マークが分からなくなるので縦の長さで見分けている。困っている視覚障がい者には「大丈夫ですか」と聞くと、思わず「はい」と答えてしまう方も多く「お手伝いしましょうか」と聞く方が良い。また、目の見えない人を案内する時は、自分の肘や肩に触れさせると、自分の半歩後ろを歩くことになり安心するそうです。

そんな成川氏は2015年から母の介護がきっかけで家事を始め、炊事・洗濯・風呂掃除等は、初めての経験で心が折れる毎日だったそうです。そんな時に浮かんだ言葉が「なんちゃって主婦」で「なんちゃって」を付けることで、気持ちが楽になったそうです。

ユーモアあふれる成川氏の講演後、ボランティアの方の指導でアイマスクをし、袋の中に入った食べ物の匂いで種類を当てたり、コップに水を入れ分量を量ったり、シャンプーとリンスを点字で区別する体験をしました。またシートを使って白内障と同じ状態で名前を

書く等、色々な体験をさせて頂きました。

最後に「目が見えたらやりたい事は？」との質問には「青や赤といった実際の色を見たい」とのことでした。この講演で得た体験を今後の民生・児童委員活動に活かしたいと思います。

（4地区 吉田祐一 記）

＊成川和孝氏は、足立区総合ボランティアセンターに登録し各種ボランティア活動をしています。



無縁社会を考える

新田一丁目団地

自治会が発足し早50年が過ぎ、入居時は若さにあふれていた住民も、時代と共に高齢化の波におされ8割近くが高齢者（単身の高齢者を含む）となりました。

孤独死が報道されるようになった頃から住民同士の見守り活動を始め、1人で100歩より100人で1歩進もうと取り組み、月2回の清掃、年2回の大掃除は全員参加の顔が見える行事として行っています。また月1回、手書きの回覧板を出します。それは隣の玄関のノブにだまってかけるのではなく、ノックをして顔を見て渡し「見たよ」「読んだよ」というサインをする事を決めて進めました。みんなが隣近所から見守りますが、特に単身者の場合は閉じこもりがちになり、なかなか姿が見られません。この様な方々に声をかけるのは大変むずかしい事ではありますが、自分から挨拶すれば必ず何かは返ってきます。たわいもない話をするだけでも安心が見え、生活の姿が見えます。

こうした力を入れない見守りが日々活きていると信じています。見守る人も高齢者となっている為「遠くの身内より近くの他人と絆を結ぶ事を大切にしてい

ましよう」と月々の回覧板に書き、いつでも何時でも何かあれば自治会長のところに連絡を入れてくれるよう電話番号を全世帯に知らせ、近所同士のふれあい、助け合いの輪を広げています。

（新田一丁目アパート自治会会長 鈴木きくえ 記）



寺地小学校 4年 高田 丹喜 作



「高齢者声かけ訓練」 認知症に理解のある街をめざして



平成 30 年 12 月 1 日、北千住駅東口の学園通り千住旭町商店街を会場に「高齢者声かけ訓練」が行われました。

訓練は“認知症の方へ声をかける勇気をもつこと”を目的に、道に迷った設定の高齢者役の方に声をかけ、会話や持ち物から状況を把握して、家族や関係機関への連絡等必要な支援へつなげる過程を体験しました。

始めにオリエンテーションで声かけのポイントを学んだ後、6 班に分かれて地域住民が 2 人 1 組になって声かけの体験を行いました。

体験後の振り返りでは、「訓練だからうまくいったが、実際は難しい」「良い体験だった。繰り返せると良い」「大学生も多いので、若い方にも体験してほしい」など、様々な感想が出ました。

今回の訓練は「常東地域あんしん拡大推進会議」の主催で行われました。これは絆のあんしんネットワーク連絡会の拡大版として常東地区の民生・児童委員、絆のあんしん協力員、町会・自治会など協力機関、医療機関や介護事業所などが集まって地域の課題を話し



▲ 常東地区の「高齢者声かけ訓練」

合う会議です。

訓練の実行委員会には、この会議から常東地区民児協の遠間会長、宮本副会長（学園通り千住旭町商店街理事長）に参加頂き、検討を重ねてきました。この訓練を機に、さらに地域でのネットワークが強まったように感じます。

（足立区社会福祉協議会 地域福祉課 花本洋子 記）

シリーズ 老後を考える

ふれあいサロンまつり 2018年11月22日



地域包括支援センター関原の主催で、梅田・関原地域で活動中の 11ヶ所のふれあいサロンが、PR のために L・ソフィア 4 階ホールに集結しました。

梅田クラブの生バンド演奏で「上を向いて歩こう」「瀬戸の花嫁」などを歌ったあと、各サロン代表者から開催日時、場所、活動内容などの紹介がありました。多くのサロンは歌、おしゃべり、体操などでした。英語で活動しているサロンは他の地域にもありま

すが、こちらでは約 80 名の会員が自分たちのレベルに合ったグループに分かれて、英語で会話をし、英語の本を読んで楽しむそうです。また 89 歳の女性は昔、進駐軍に勤めていた経験をいかして初級英語を指導しています。

最初に生演奏をした梅田クラブは、45 名の会員が月に一回開催される音楽演奏を聴き、カラオケやストレッチ体操を楽しんでいます。

舞台発表の体操やフォークダンスなどは、120 名を超えるお客様も一緒に体験して楽しんでいました。

（10 地区 渡邊進 記）





合言葉は”レミチ（友情）！” ジュニアリーダー宿泊キャンプ

“レミチ！”子どもたちの大きな声でキャンプはスタートしました。今年の合言葉“レミチ”の語源は、フランス語の“ラミティエ”で、友情という意味です。

朝7時に島根小学校に集まった子どもたちの顔には、キャンプへの期待と、少しの不安が垣間見えます。これからの4日間を共にする班の仲間と会うのは、この日がまだ3回目なのですから…。

東京の気温に比べれば標高が高い分だけ、過ごしやすい御殿場ですが、夏の日差しに変わりありません。子どもたちの頑張りもあり、最後まで1人の脱落者も出ることなく無事帰京することができました。

現地では、往復7kmのウォークラリーのほか、富士登山、洞窟めぐり、ピザづくり、流しそうめん体験など様々なプログラムが用意されていました。この日を迎えるために、足立区少年団体連合協議会（以下

「少連協」という）スタッフが2月から実践し、協議を重ねて半年かけて準備したものです。また、プログラムを考えた少連協JLクラブメンバーの中には、受験を控えた中学生・高校生もいます。現地には一緒に行けないけれど「参加者に楽しい思い出を作ってもらいたい」という思いが詰まった3泊4日のキャンプは天候にも恵まれて、恒例のキャンプファイヤーと、退所式で閉幕となりました。

運営をした少連協の役員、事務局員の皆さんには、「足立区の子どもたちのために」という熱い思いが脈々と受け継がれていて、日々の活動の原動力となっています。今後は、少連協JLクラブの活性化と拡充など、区と少連協が協働してさらなる発展を目指していきます。

（青少年課 記）

【詳細データ】

日程	8月1日(木)～4日(日) 3泊4日
会場	国立中央青少年交流の家（静岡県御殿場市）
主催	教育委員会子ども家庭部青少年課
運営	足立区少年団体連合協議会（山本輝夫会長）
参加者	小学5・6年生113人 中学生37人 計150人 内訳：ベーシックコース（初めて参加の小学生）91人 アドバンスコース（中学生と2年連続の小学生）59人
スタッフ	少連協スタッフほか約50人

中学生俳句コーナー

はなひらく かやくのにおい せみのこえ

一年 銭 妍

夏の家 私と蚊との 一騎打ち

一年 阿部 一宙

甲子園 熱き男の 友情だ

一年 深澤 良太

春が来て 胸鳴り響き 新世界

一年 中村 夏帆

冬の夜 家の光が 町めぐる

一年 渡辺 悠希

晴れ間に 夢見る蝶の 一人旅

一年 田中 咲妃

蝉時雨 三年間の 時を経て

一年 坂本 悠太

足立区立第四中学校



全員研修会 さくらアンケート結果

アンケート実施日：令和元年8月1日

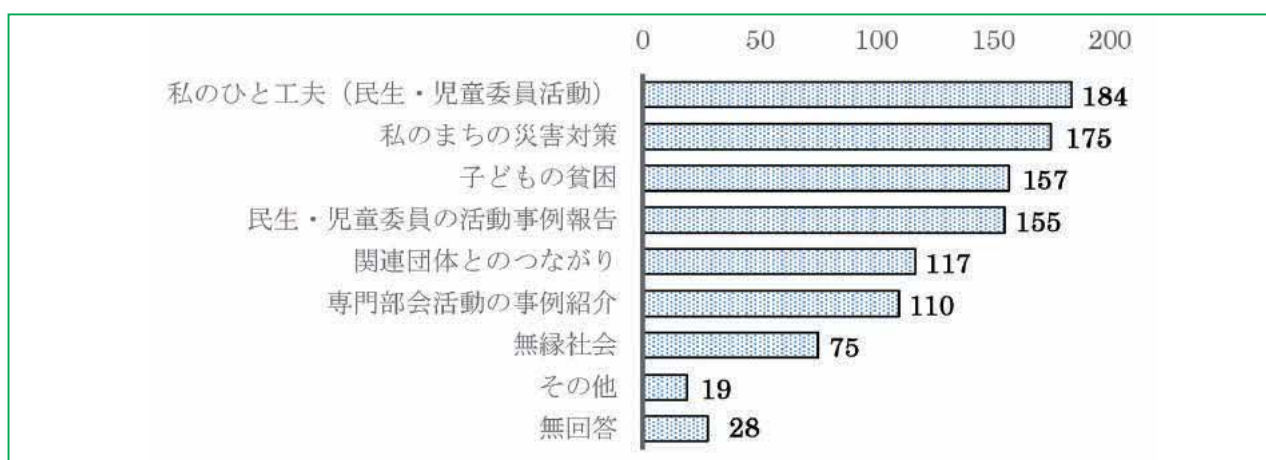
配布枚数：718枚 回答者数：429名 回収率 59.7%

Q 「さくら」の印象について

	良い	まあ良い	ふつう	やや悪い	悪い	無回答
全体の印象	35.0%	45.7%	16.8%	0.7%	0.0%	1.9%
前回の印象との比較	30.3%	44.3%	21.7%	0.0%	0.0%	3.7%
読みやすさ	35.2%	44.3%	17.9%	0.9%	0.0%	1.6%
文字の大きさ	34.0%	39.2%	21.9%	3.7%	0.2%	0.9%
小・中学生の作品	46.2%	37.8%	12.1%	0.0%	0.0%	4.0%

Q 今後取り上げて欲しい話題

複数回答



カラー化後、初めての実施となる今回のアンケートでは、カラー紙面について「絵画作品が鮮明で見やすい」「紙面にメリハリがあり読みやすい」等、多くの好評を頂戴しました。また、さくらの印象について、すべての項目で7割以上の方から「良い」「まあ良い」の評価をいただきました。

今後取り上げて欲しい話題では、民生・児童委員活動やまちの災害対策について多くの方の関心があることが分かり、今後の紙面づくりに大変参考になりました。これからも皆様に読みやすく、興味をもっていただけの広報紙づくりを心掛けてまいります。

アンケートへのご協力、ありがとうございました。

編集後記

広報紙「さくら」は今回で51号の発行となりました。

カラー印刷になり、児童の絵画や活字も見やすくなり、皆様から好評をいただいています。

これからも、皆様のご意見を参考にいろいろ工夫しながら、多くの人達に読んでいただけるように、努力してまいります。

（19地区 赤羽月子 記）

- 小学生掲載絵画および中学生詩歌、俳句の依頼は、第一合同から第七合同の小・中学校に順番にお願いしております。
- 皆様の原稿を募集いたします。（原稿は未発表のものに限ります） 次号発行予定日 3月1日

広報委員会

委員長 鶴田晴久 副委員長 金子みどり 書記 山崎秀夫 会計 丸山まさ子 編集 田中礼子 レイアウト 齋藤祐子 櫻井春子 校正 森葉子 編集委員 吉田祐一 渡邊稔 福原健 鈴木木恒 江川礼子 金宮和代 鈴木恒雄 校正委員 星野明美 松浦恵子 上野剛 矢澤敏 志賀口博 足立由美子 渡辺章子 小川玲子 益塚賢治 赤羽月子